

---

## 平成23年度(2011年度)事業計画

(平成23年 4 月 1 日～平成24年 3 月 31 日)

---

## 1. 総務委員会

### 1) 年次学術集会

第56回日本透析医学会年次学術集会は、昭和大学医学部内科学講座腎臓内科学部門教授秋澤忠男会長が主宰して、平成23年6月17日(金)・18日(土)・19日(日)の3日間、パシフィコ横浜等を会場として開催する。今回のメインテーマは「挑戦する腎臓学、変革する透析医学」—Challenging Nephrology, Revolutionizing Dialysis Therapy—を掲げて、Japan Kidney Week 2011 (JKW2011) として開催する。

＜日本腎臓学会との共催シンポジウム＞

「Late breaking clinical trial」5題、「CKD-MBD 診療ガイドライン」7題

＜特別講演＞

「生きているってすばらしい」, 「The Impact of the New US Bundled Payment System for dialysis services」

＜緊急企画＞

「東日本大震災と透析医療：被災地からの報告」5題,  
「東日本大震災と透析医療：支援地からの報告」4題

＜会長講演＞

「変革する透析学～歴史と展望～」

＜シンポジウム＞

「Critical Care Nephrology の進歩」6題, 「包括的腎不全医療」7題, 「腎代替療法の新たな展開」7題, 「CKD における異所性石灰化：基礎と臨床」7題, 「透析患者の心血管病変の管理」5題, 「透析患者の血圧管理」6題, 「医療経済からみた透析医療の現状と問題点」5題, 「認定看護師 (DLN, CN, CNS) の現状と今後の課題」5題, 「臨床工学技士の生涯学習」5題, 「CKD におけるミネラル代謝異常 最新情報」9題, 「血液透析患者の腎性貧血治療を再考する」7題, 「透析医療と感染症」8題, 「要介護透析患者の医療連携」8題, 「腹膜透析ガイドライン—その後」6題, 「DOPPS Symposium in Japan」10題

＜ワークショップ＞

「透析患者の MIA 症候群の病態と治療」5題, 「透析医療と腎移植—改正臓器移植法案は何をもたらすか—」6題, 「透析患者における悪性腫瘍の診断と治療」6題, 「透析医療における Interventional Radiology」6題, 「透析医療者のための臨床研究デザイン道場」4題, 「透析導入患者予後向上のための保存期からの取り組み」5題, 「Vascular access の現状と課題」10題, 「透析患者の薬物適正使用～現状の問題点について考える～」6題, 「透析アミロイド

シス UpDate」6題, 「透析患者の適正栄養管理を考える」6題

＜教育講演＞

「小児慢性腎不全診療の現状と課題」, 「腎移植患者の管理」, 「透析患者の循環器治療における落とし穴」, 「糖尿病透析患者の血糖管理～目標とその手段～」, 「心・腎バイオマーカー：透析医学における有用性」, 「心疾患とアフェレシス」, 「腎不全患者におけるビタミン D 治療の意義」, 「透析の次世代技術を展望する」, 「透析液水質基準及び水質管理基準の変遷」, 「生体適合性」, 「透析患者の体液測定法の進歩」, 「透析患者における造影剤」, 「腎不全患者における鉄代謝」, 「ペースメーカの基礎と血液浄化への応用」, 「在宅血液透析の実践」, 「医学研究にかかる COI (利益相反)：意義と実際」, 「透析医療における災害対策」, 「末期腎不全患者の連携パス」, 「看護の実践知」

＜よくわかるシリーズ＞

「嚢胞性腎疾患の管理と治療」2題, 「急性腎障害」2題, 「やさしい kinetics」2題, 「院内感染」2題, 「透析技術の進歩」2題, 「心電図の見方」2題, 「バスキュラーアクセスⅠ」2題, 「バスキュラーアクセスⅡ」2題, 「CKD-MBD 管理薬剤の使用法」2題, 「注目される尿毒素」2題, 「on-line HDF」2題, 「透析患者の合併症Ⅰ」2題, 「腹膜透析」2題, 「透析患者の合併症Ⅱ」2題, 「腎移植」2題, 「肝炎透析患者」2題, 「社会支援」2題, 「透析患者の栄養管理」2題, 「口腔内ケアとフットケア」2題

＜学会・委員会企画＞

「JSDT2011 統計調査委員会企画」5題, 『透析患者の糖尿病治療ガイドライン作成 WG コンセンサスカンファランス「透析患者の糖尿病治療ガイドライン」』11題, 『血液透析ガイドライン作成 WG「血液透析導入と透析処方に関するガイドライン作成に向けて」』8題, 『腎不全総合対策委員会：「我が国の CKD ステージ5の実情と今後の対策」』6題, 『血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会「血液浄化器の機能分類—新しい分類の考え方を求めて—」』6題, 『専門医制度委員会「JSDT 専門医制度の問題点と改訂案」』5題, 『国際学術交流委員会企画「JSDT2011 Program by the Committee of International Communication for Academic Research (JSDT-CICAR)」, シンポジウム「Survival of Dialysis Patients: What can we do for it?」』5題, ワークショップ「Dialysis Initiation: When should we start?」4題, 「International oral session-1」4題,

「International oral session-2」4題,「International oral session-3」4題,「International poster session-1」4題,「International poster session-2」4題』

#### ＜市民公開講座＞

平成23年7月3日(日)品川プリンスホテル,7月24日(日)浦和,7月31日(日)横浜,10月9日(日)川崎,11月6日(日)廿日市(広島)にて開催予定  
・一般演題2,906題(口演演題1,776題・ポスター演題1,130題)の申し込みがある。

・学会賞・奨励賞受賞記念講演も予定されている。

#### 2) 評議員会

平成23年度評議員会を,平成23年6月16日(木)16:00～パシフィコ横浜アネックスホールにおいて開催する。

#### 3) 通常総会

第56回通常総会を,平成23年6月18日(土)13:00～パシフィコ横浜 会議センター1階 メインホールにおいて開催する。

#### 4) 役員会に関する件

・常任理事会・理事会:平成23年5月・6月・11月・平成24年3月 計4回開催する。

・監査会:平成23年6月に開催する。

#### 5) 透析施設会員名簿の発行

会員名簿は例年どおり発行されるが,個人情報保護の観点から,電話番号や責任者氏名などの公表を希望しない施設については,引き続きその情報を掲示しない方針である。

#### 6) 小委員会

##### (1) 危機管理小委員会

① 日本透析医会との協力事業として推進してきた透析医療事故防止体制の確立に関する研究を継続して行うとともに,医療過誤防止の啓発活動に務める。

② 日本透析医学会統計調査委員会に登録されている各地域協力委員ならびに日本透析医学会常任理事らも参加し,インターネットを利用した日本透析医会の災害対策メーリングシステムが構築されている。今年度もこのシステムを利用し,災害時の緊急情報の共有ならびに支援対策の確立に向けて活動する。

③ 厚生労働省等から報告される,薬剤・医療器具などに関連する緊急安全情報の中で,透析医療にかかわるものについて,日本透析医学会ホームページを利用して会員への周知を図る。

##### (2) HP・電算機小委員会

学会ホームページ(HP)のさらなる充実を図る。

① 学会活動ならびに関連情報の迅速な公開・更新を行う。

② 各種委員会,小委員会,ワーキンググループ活動内容を積極的にHPに掲載する。

③ 会員専用ページ設置を検討する。

④ 一般向けページ設置の有無を検討する。

⑤ HPのリニューアルについて検討する。

#### (3) 腎不全看護師育成に関する小委員会

腎不全看護師育成に関し,腎不全看護学会と共同で現在の専門看護師育成に係る問題点などを取り上げ,これに対する対策を検討する。

#### (4) 感染調査小委員会

本小委員会は院内感染の集団発症が発生した時には,関係者の協力を得て機動的に対応するとともに,今後発生の頻度が高いと思われる感染症の事例に機動的に対応する。

#### (5) 法人問題検討小委員会

本小委員会は法人の形態を決定し,新法人移行申請書を提出する。

#### (6) 男女共同参画推進小委員会

第57回日本透析医学会学術集会・総会における男女共同参画小委員会企画の立案を行う。

#### (7) 研究者の利益相反等検討小委員会

本小委員会は理事長の諮問により利益相反状態の問題の有無・程度の検討,審査請求に対する判断等を行う。

#### 7) 他学会との連絡,協力関係

①「日本医学会」,②日本慢性腎臓病(CKD)対策協議会,③透析療法合同専門委員会,④内科系学会社会保険連合,⑤臓器移植関連学会協議会,⑥末期腎不全治療説明用小冊子作成,⑦糖尿病性腎症合同委員会,⑧登録腎生検予後調査検討委員会,⑨日本透析医会との連絡協議会,⑩日本医療器材工業会と日本透析医学会の連絡協議会,⑪「日本専門医制評価・認定機構」,⑫「血液浄化療法業務ガイドライン策定委員会」等関連各学会等と協力,連携を密にしていく。

## 2. 財務委員会

財務業務は,平成16年10月「公益法人会計基準」の改正に伴い,新公益法人会計基準による,総務省から示された「公益法人会計基準の運用指針」に従い,従来の健全な財政を維持しつつ,「公益法人の設立許可及び指導監督基準の運用方針」による「内部留保」の水準について,公益事業としての適切な水準維持並

びに税務を含めた適正な会計処理を継続的に遂行すると同時に「公益法人会計における内部管理事項について」を踏まえ、学会として各常置委員会、小委員会の諸事業を積極的に推進し、多大な成果が得られるよう財務を通じて協力助成する。また、平成 20 年 12 月に新公益法人制度が施行され、平成 25 年 11 月末日までに新法人への移行を完了しなければならないことを考慮し、必要経費の予算化など、平成 20 年度改正の新・新公益法人会計基準を視野に入れた対応を含め財務業務の全般的な見直しを検討する。

### 3. 編集委員会

#### 1) 和文誌について

日本透析医学会雑誌を毎月 1 冊、44 巻 1 号～12 号として発行する。学術集会特別号（抄録集）を supplement として発行する。

科学技術振興機構（JST）の J-STAGE 及び Journal@rchive にて電子ジャーナルを公開する。

#### 2) 欧文誌について

日本透析医学会の公式欧文誌は、Therapeutic Apheresis and Dialysis (TAD) として引き続き年 6 回刊行する。

#### 3) その他

投稿規程を改定する。

### 4. 学術委員会

#### 1) 学会賞・奨励賞の選出

選考規定に則って学会賞・奨励賞の選考を行い、理事会の承認を得る。

#### 2) 小委員会活動

##### (1) 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会(川西秀樹委員長)

- ① 国際標準化機構（ISO）にて新たに「透析治療における医療製品の安全な使用のためのガイドライン」が検討されることとなった。これまでの透析液清浄化基準と合わせて討議するため、日本臨床工学技士会、日本医療器材工業会人工腎臓部会の協力を得て「ISO 対策ワーキンググループ」を継続する。さらに ISO 会議（ブラジル、平成 23 年 9 月）に委員を派遣し、引き続き本邦の見解を ISO 基準へ反映させる。

- ② エンドトキシン阻止フィルター管理基準を決定し学会誌に掲載・報告する。

新たな「血液浄化器性能評価法（血液透析、血

液透析濾過/血液濾過）を決定し学会誌に掲載・報告する。

- ③ 第 56 回日本透析医学会学術集会において、委員会セッション「血液浄化器の機能分類」——新しい分類の考え方を求めて——を企画・討議し、新たな血液浄化器機能分類を提言する。
- ④ 学術委員会・ガイドライン作成小委員会の「血液透析ガイドライン作成ワーキンググループ、透析処方」へ協力し血液浄化の機能・効率に関するエビデンスをガイドラインに反映させる。
- ⑤ 血液浄化療法の機能・効率に関する臨床研究ならびに臨床治験を企画する。

##### (2) ガイドライン作成小委員会（友 雅司委員長）

- ① 血液透析療法治療ガイドライン作成ワーキンググループ（渡邊有三グループ長）

血液透析療法治療ガイドラインの作成に向けて、各サブグループでタスクフォースを組織し、活動を行う。第 56 回学術集会・総会において委員会企画「血液透析導入と透析処方に関するガイドライン作成に向けて」を開き、ガイドライン作成に向けて活動を行う。

- ② CKD-MBD 治療ガイドライン作成ワーキンググループ（深川雅史グループ長）

CKD の保存期および維持透析期における mineral bone disorder に関するガイドラインの作成を目指してエビデンスの集積などの活動を継続する。第 56 回学術集会・総会において日本腎臓学会との共催シンポジウム「CKD-MBD 診療ガイドライン」を開催する。

- ③ 腹膜透析ガイドライン改定準備ワーキンググループ（中山昌明グループ長）

2009 年に発表した腹膜透析ガイドラインの改定の準備にむけて、今後どのようなエビデンスの集積が必要かなどについて検討を行い、報告すべく活動を行う。

本ガイドラインの普及率に関するアンケート調査を行い報告する。

- ④ 透析患者における心血管合併症の評価と治療に関するガイドライン作成ワーキンググループ（平方秀樹グループ長）

ガイドラインを作成し、本学会和文誌に発表する。本学会誌英文誌に発表するための英文化にとりかかる。

- ⑤ バスキュラーアクセスガイドライン改訂ワーキンググループ（久木田和丘グループ長）

ガイドラインを完成し、本学会和文誌に発表す

る。本学会英文誌に発表するための英文化にとりかかる。

⑥ 透析患者の糖尿病治療ガイドライン作成ワーキンググループ（中尾俊之グループ長）

透析患者における糖尿病透析患者の治療ガイドラインを作成すべく活動を継続する。第56回日本透析医学会学術集会・総会でコンセンサス・カンファランス「透析患者の糖尿病治療ガイドライン」を開催する。

⑦ 透析患者のC型肝炎の治療ガイドライン作成ワーキンググループ（秋葉 隆グループ長）

ガイドラインを完成し、本学会和文誌に発表する。本学会英文誌に発表するための英文化にとりかかる。

⑧ 栄養問題検討ワーキンググループ（中尾俊之グループ長）

昨年度の主な活動内容としての、透析患者の食事療法基準、Protein energy wastingの診断、同治療指針に関しての検討報告を本学会和文誌に委員会報告として発表する。

(3) 医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会（重松 隆委員長）

対象を医師とコメディカルにわけ、特に、後者について今後の透析医療の見通しを探る中から、研究の方向性を指し示す定期的な検討会議を設定する。

透析医療に従事するコメディカルに、学会等を通じた統一的なプログラムのスケジュールを立案・提言する。

3) コメディカルスタッフ研究助成基金運営委員会（平方秀樹委員長）

例年通りの方法で適切な応募研究課題の中から選考する。

## 5. 統計調査委員会

1) 2010年度に行われた「わが国の慢性透析療法の現況」に関するアンケート調査（2010年12月31日現在）の内容を集計し、日本透析医学会学術集会・総会に速報として報告する。

2) 日常診療に必要な内容を抜粋し図表化した「図説わが国の慢性透析療法の現況（2010年12月31日現在）」を作成し、施設会員などに配布する。

3) 2010年度に行われた「わが国の慢性透析療法の現況」に関するアンケート調査（2010年12月31日現在）の内容の詳細をCD化して、施設会員などに配

布する。

4) 2012年1月の本学会誌に「わが国の慢性透析療法の現況（2010年12月31日現在）」を掲載する。

5) 「わが国の慢性透析療法の現況（2010年12月31日現在）」の英語版を作成し、本学会誌英語版（Therapeutic Apheresis and Dialysis）に掲載する。

6) 2011年12月31日時点での慢性透析療法の現況について、透析医療内容の変遷などを把握するためのアンケートを作成送付し、適切な回収作業を行う。

7) 会員、各委員会などから統計調査委員会に要望のあった調査・解析や統計調査委員会の委員会研究に加え、公募研究に応募された統計解析をサポートし、わが国の透析医学の発展に寄与する。

8) 従来から蓄積されてきたデータベースの検証を継続し、今後の統計調査とその解析に十分な信頼性のあるデータベースを構築する。委託業者との契約内容を整備する。

9) 統計調査委員会委員や統計解析小委員会委員、さらには公募研究者の指導などの目的で、統計解析に関する講習会などを開催する。

10) 2010年度末の「PDレジストリ」の結果を踏まえ、2011年末の調査方法や調査項目などを再検討する。

11) 疫学研究に関する倫理指針の趣旨に沿って、調査結果をさらに公開する。

## 6. 専門医制度委員会

1) 日本透析医学会専門医制度委員会認定の専門医は、一層その透析専門医としての「質」を継続維持していくため平成17年度より、本学会専門医の更新を目指す医師を対象とする「セルフトレーニング問題」を導入しておりその問題を学会誌に掲載し、専門医認定委員会の厳密な審査で所定の正答率をクリアした専門医には一定の研修単位（5単位）を認定している。

専門医更新必須条件であるセルフトレーニング問題正答は（認定期間5年のうち1回以上正答する）として実施している。

今年度（平成23年度）のセルフトレーニング問題は、学会誌3号・4号に問題を掲載し、受付期間は5月1日～5月31日を予定している。

2) 初回専門医試験をめざす申請者の提出サマリー記載の参考として、専門医の資格審査に必要な診療実績記録集、典型的な記載モデル集「専門医資格診療実績（症例要約）モデル集」改訂第5版（全面改訂版）を企画している。

前半部に「透析専門医のための研修カリキュラム」を挿入してより内容を充実した実用的なモデル集として専門医認定委員会編集・専門医制度委員会発行で今年度の専門医認定申請受付開始までに刊行予定である。

- 3) 専門医認定申請における客観式筆記試験および口答試問試験の参考書として専門医認定試験問題解説集「改訂第7版(全面改訂版)」については来年度専門医申請申請者の応募終了後までに刊行予定である。

各主題について試験問題例としてAタイプ、X2タイプ、口答試問の3種類の問題を掲載し作成する予定である。

- 4) 日本専門医認定機構からの検討要請が迫られている事項を、透析専門医のレベル向上のため『透析専門医のための研修カリキュラム(一部改訂版)』においても企画している。

専門医認定新規申請書類に専門医資格取得に必要な教育課程チェックリストである『透析専門医のための研修カリキュラム』到達状況を義務づけることを昨年同様実施する予定である。

- 5) 専門医制度における「倫理の問題」についても審議し昨年同様啓蒙する予定である。
- 6) 平成23年度の専門医認定審査は、平成22年度に引き続いて書類審査、客観式筆記試験(問題形式はAタイプ、X2タイプ)、口答試問試験の3者の総合的な判断で行うことにするが、平成22年度に実施した試験の分析結果も考慮して可否を決定する予定である。今年度から優良な試験問題をプールして、効率的な試験問題作成を可能にするために、データベース化する予定である。
- 7) 現在の専門医制度規則・施行細則について、現状に見合った一部見直しの必要性の有無について検討された。規則第6章、第1節、第35条「認定施設と教育関連施設との関係」について引き続き、教育関連施設認可システム(認定期間の問題等)も含めて継続審議の予定である。
- 8) 専門医認定(専門医認定試験)、専門医認定と更新、指導医認定と更新、認定施設・教育関連施設認定と更新、の公示・受付等については下記の通りである。

① 第22回専門医認定

申請受付の会告 2011年3月～5月

申請書類受付

2011年6月1日～6月30日

専門医認定試験(筆答及び口答による学力試験試問) 10月16日(日)・第3日曜日

試験会場 都市センターホテル(東京都)

第2回専門医認定(1992年度認定・1997年度更新・2002年度更新・2007年度更新)更新認定  
更新申請受付の会告 2011年8月～10月  
更新申請書類受付

2011年11月1日～11月30日

第7回専門医認定(1997年度認定・2002年度更新・2007年度更新)更新認定

更新申請受付の会告 2011年8月～10月

更新申請書類受付

2011年11月1日～11月30日

第12回専門医認定(2001年度認定・2007年度更新)更新認定

更新申請受付の会告 2011年8月～10月

更新申請書類受付

2011年11月1日～11月30日

第17回専門医認定(2007年度認定)更新認定

更新申請受付の会告 2011年8月～10月

更新申請書類受付

2011年11月1日～11月30日

② 第22回指導医認定

申請受付の会告 2011年10月～12月

申請書類受付

2012年1月6日～1月31日

第2回指導医認定(1992年度認定・1997年度更新・2002年度更新・2007年度更新)更新認定

更新申請受付の会告 2011年9月～11月

更新申請書類受付

2011年12月1日～12月28日

第6回指導医認定(1996年度認定・2002年度更新・2007年度更新)更新認定

更新申請受付の会告 2011年9月～11月

更新申請書類受付

2011年12月1日～12月28日

第12回指導医認定(2002年度認定・2007年度更新)更新認定

更新申請受付の会告 2011年9月～11月

更新申請書類受付

2011年12月1日～12月28日

第17回指導医認定(2007年度認定)更新認定

更新申請受付の会告 2011年9月～11月

更新申請書類受付

2011年12月1日～12月28日

③ 第21回認定施設・教育関連施設認定

申請受付の会告 2011年4月～6月

申請書類受付

2011年7月15日～8月15日

第1回認定施設・教育関連施設認定（1991年度認定・1994年度更新・1997年度更新・2002年度認定・2007年度更新）更新認定

更新申請受付の会告 2011年4月～6月

更新申請書類受付

2011年7月15日～8月15日

第6回認定施設・教育関連施設認定（1997年度認定・2002年度更新・2007年度更新）更新認定

更新申請受付の会告 2011年4月～6月

更新申請書類受付

2011年7月15日～8月15日

第11回認定施設・教育関連施設認定（2001年度認定・2007年度更新）更新認定

更新申請受付の会告 2011年4月～6月

更新申請書類受付

2011年7月15日～8月15日

第16回認定施設・教育関連施設認定（2007年度認定）更新認定

更新申請受付の会告 2011年4月～6月

更新申請書類受付

2011年7月15日～8月15日

## 7. 国際学術交流委員会

1) 第56回日本透析医学会学術集会・総会（秋澤忠男会長）にて国際セッションを開催する。

JSDT2011Program by the Committee of International Communication for Academic Research (JSDT-CICAR)

(1) Symposium. Survival of Dialysis Patients : What can we do for it?

Chair : Kunitoshi Iseki, Masafumi Fukagawa

Speaker :

1. EVEREST study :

Fergus J Caskey

2. DaVita : Ca, Pi, PTH

Kamyar Kalantar-Zadeh

3. JSDT : BP, KDIGO-CVD

Kunitoshi Iseki

4. JSDT : Dyslipidemia

Tetsuo Shoji

5. ISRNM : Anabolic interventions

T. Alp Ikizler

わが国の透析患者の生存率が良好な理由について現在進行中の国際比較研究（エベレスト研究）を中心に JSDT のデータもまじえて討議する。

(2) Workshop. Dialysis Initiation : When should we start?

Chair : Kunihiro Yamagata, Enyu Imai

Speaker :

1. IEADL study Bruce Cooper

2. Taiwan study Shang-Jyh Hwang

3. JSDT data on Incident Patients

Kunihiro Yamagata

4. Dynamics of Incident Patients

Norio Hanafusa

透析導入の時期についてはエビデンスが少なく世界的にガイドライン作成の動きが出ている。最近相次いで発表された IDEAL 研究及び台湾の報告と JSDT の委員会研究を併せて討議する。

(3) 一般演題：英語：3セッション，12題

1. International Oral Session-1

Chair : Takatoshi Kakuta

2. International Oral Session-2

Chair : Munekazu Ryuzaki

3. International Oral Session-3

Chair : Nobuhito Hirawa

(4) ポスター発表：2セッション，8題

1. International Poster Session-1

Chair : Kazo Kaizu

2. International Poster Session-2

Chair : Mitsuru Yanai

2) 一層の国際交流と協力関係を構築するために海外で開催される国際会議や学会に依頼があれば日本透析医学会から代表を派遣する。2010年度は3委員（井関邦敏，海津嘉蔵，平和伸仁の各委員）が AKI のワーキンググループ会合に参加した（San Diego, USA）。2011年度の出席予定者（湯澤由紀夫，海津嘉蔵，平和伸仁の各委員）。

## 8. 評議員選出委員会

1) 日本透析医学会評議員選出規則に基づき，第10回評議員選挙を実施する。

① 日本透析医学会雑誌平成23年10月発刊号に評議員選挙に関する公示を行う。

② 立候補受付締め切り（平成23年11月20日）後，立候補者の資格審査を行う。

③ 日本透析医学会雑誌平成23年12月発刊号に

評議員候補者の公示を行う。

④ 投票用紙を有権者に郵送（平成 24 年 1 月上旬予定）する。

⑤ 投票受付締め切り（平成 24 年 2 月 15 日）後、立会人のもとに開票（平成 24 年 2 月下旬予定）し、評議員を選出する。

2) 評議員選出上で検討すべき事項が会員より提出されれば、これを審議する。

3) 新法人移行に伴う対応をする。

4) 所要の規定の整備を行う。

## 9. 保険委員会

平成 24 年度保険改定に向けて学会員より要望を収集し、それを基に、内科系社会保険連合（内保連）血液浄化委員会と討議し、日本腎臓学会、日本アフェレンス学会、日本急性血液浄化学会、日本小児腎臓病学会、日本腹膜透析医学会と連携して提案を行うこととした。

案件としては、オンライン血液透析濾過療法・血液濾過療法技術料新設、経皮的透析用ブラッドアクセス形成術技術料新設、連続携行式腹膜灌流処置料見直し、人工腎臓処置料見直し、慢性維持透析患者外来医学管理料包括対象の見直し、等があげられており、今後検討の上、内保連を通じて提案することとした。また、案件に関して日本透析医会とも連携し達成に努めることとした。さらに血液浄化技術に関する処置改正試案を作成し、内保連に提出、改定を働きかけることとした。

「透析液水質確保に関する研修」を本学会学術集会・総会ならびに専門医制度委員会が認定している地方学術集会ならびに全国規模学術集会において実施する。

## 10. 倫理委員会

透析医学会として対応すべき倫理に関する課題に対して、適時委員会を開催し審議する。

## 11. 腎不全総合対策委員会

1) 腎移植の普及に努める。

(1) 腎移植への理解を深めるため、日本移植学会、日本臨床腎移植学会などと共同にて、日本透析医学会学術集会・総会、および関連学会・研究会などで臓器移植ネットワークの活動内容の紹介を含め、移植、特に献腎移植や生体腎移植の啓発活動

を行う。

(2) 日本移植学会、日本臨床腎移植学会、日本腎臓学会、日本小児腎臓病学会と協力し、腎移植研修プログラム（教育セミナー、研修病院での研修）への会員の参加を積極的に呼びかける。

(3) 医療側、患者側の治療法選択と施設選択に役立てるために、上記学会と協力し合い末期腎不全統計の詳細な積極的な公開を進める。この実務に当たるため、腎不全総合対策委員会にワーキンググループを組織し、末期腎不全統計、preemptive 腎移植、保存期腎不全治療、腎代替法についてのコンセンサスなど、実質的な検討を行う。

(4) ドナー不足に対して、各種学会・研究会などにおいて、政臓器提供カードの配布を行い、臓器提供の増加をはかる。また生体腎移植の実態について啓発を行う。

(5) 会員に、改定された「臓器の移植に関する法律」のガイドラインについて広報し、「旅行移植」の問題についても積極的な啓発活動を行う。

2) 慢性腎臓病（CKD）対策を講じる。

(1) 日本腎臓学会、厚生労働省が支援している進行性腎障害に関する調査研究班、本学会統計調査委員会と協力し、当委員会傘下の CKD 対策小委員会、腎臓病総合レジストリーワーキンググループを中心に、円滑なレジストレーション、および腎臓病（腎生検）記録カードによる有益なデータ解析が行えるように体制を強化する。

この体制を作るため、倫理委員会・統計調査委員会と共同して、各導入施設で透析導入時に透析（移植）統計へのレジストレーション参加の同意を得るシステム構築に努力する。

(2) 小児についても、日本小児腎臓病学会を加えた上記機構で同様に進める。

(3) 厚生労働省が支援している CKD 重症予防研究についても協力する。

3) 腹膜透析の普及に努める。

(1) 日本透析医学会で作成された腹膜透析に関するガイドラインを基に教育セミナーなどを行い、それらへの参加を会員に呼びかける。

(2) 日本腎臓学会にも働きかけ、腎代替療法の一つとしての腹膜透析を患者に十分説明できるよう、腎臓専門医に対し啓発活動を行う。

4) 日本腎臓学会、日本移植学会と合同で「末期腎不全治療選択」小冊子を改訂し、配布と普及に努める。